

ふかい憂いのわかる人間になろう 重いか
なしみの見える眼を持つとう 君看よ双眼の
いろ 語らざれば憂い無きに似たり 語ら
ざれば憂い無きに似たり みつを

この詩を見てとても気に入りました。相田みつを先生の息子さんである館長、相田一人にお願いをして、小さくして家にも掛けられる大きさに作り直してもらつて、時々眺めているうちにいつとはなしに頭の中に入ってしまいました。この詩のようにできるだけ黙つて堪えていく、今でも難しい事、堪えがたいことがあるんですけども、それを人に言わないでじつと堪えていく。こういう生き方がとても大切だと思います。私は学歴もありません。社会に出ても追い回されて仕事をしてきましたから勉強するなんて時間はない。しかし、本はたくさん読みました。この本につきまして、先生方にはこういうことを教えていただきたい。最近は本を読まなくなつてと言われますが、本を読む人でも、ただ自分の好きなジャンル、あるいは自分の好きな作家ばかり読んで読書好きという人がいっぱいいますね。読書好きという人は面白いけどためにならない本を読むんですね。一方私が是非、先生方の手を通して生徒さんに勧めてもらいたいのが「読書力」をつけるということです。読書力とは何か。面白くはないけどためになる本をわかるまで、わからなかつたらわかるまで繰り返し、繰り返し読む。

便教會新聞

第170号

便教会は、教師の教師による
学ぶ会です。「方法論や技術
くして実践あるのみ」の教
令などを目的としています

。 による教師のためのトイレ掃除に
術や手法ではない、ただ身を低
教育方針で、自らの人格を高め

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五一〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
一/F ○五六三一五六一四三二七
携帶 〇九〇-4215-1727

第2回 何教會に參加し

東海大學園丁學

山高校へ足を踏み入れたのだった。ほどなく担当するトイレの前に集が、驚いたのはその道具である。道具といえば更器ブランくらしへ

集合となつた
トイレ掃除の
が知らなかつ
る、担当す
覗いて見た。
先生が和式便器
ていいと和式便器

る個室から出て、他の人の便器を偶然にも、隣の個室ではゼミ担当の便器を磨いておられた。先生が磨いていた和式便器を

「楽しみだ！是非参加したい！」と即答できる人は、いったい何人いるのであろうか。かくいう私も、ゼミ担当の先生から便教会についてのお話を聴いた際には「楽しみだ！是非参加したい！」とは到底思うことができなかつた。しかし、同じゼミの友人たちのほぼ全員の「参加します！」という声を聞き、それならば「参加するしかないな」と重い腰を上げて参加を決意したのである。

す目を見張つてしまつた。そして、いざトイレ掃除が始まると、周りの方は便器に落ちてしまふのではないかと思うほど体をかがめて掃除する様子を見て、生半可な気持ちで来る場所ではなかつたと後悔することになつた。利他の精神に溢れるグループの方々と比べると、邪な想いを胸に抱えながら参加している私は、なんと浅はかであったのかという強い呵責に苛まれた。

しかし、やるからには精いっぱいやろうと心を入れ替え、割り当てられた和式便器を集中して

なるくらいとても綺麗であった。先生の磨く和式便器と自分が磨いていた和式便器を見比べて、私はとても恥ずかしくなった。しかしそれは、自分が磨いている和式便器がまだまだ汚れていたからでは決してなかった。ではなぜかと云ふと、自分自身で勝手にこれ以上汚れが落ちることはない、もう無理だと限界を決めて、それくらいで良いかと妥協点に落ち着いていることに気づかされたからである。

普段から自分が暮らす家でさえあまりトイ
レ掃除をしない私にとって、今回初参加となる
便教会は決して楽しみと思えるものではなかっ
た。とは言え全く嫌だったというわけでもなか
った。というのは、今回の便教会の会場となっ
ていた犬山高校が、小学生の頃からお慕いして
いるガールズロックバンドのボーカルの方が卒
業された高校だつたのだ。小学生の頃から一度
は犬山高校へ行つてみたいと思いながらも、愛
知県民ではないため、なかなか機会に恵まれず
にいた。だからこそ、今回の便教会に参加すれ
ば、大好きなボーカルの方の母校へ“聖地巡礼”
できる”という邪な想いを胸に抱えながら、犬

た。純粹な気持ちで始めたトイレ掃除ではなかったものの、進めていくうちに、どんどんのめり込んでいくのが自分でもよく分かった。最初に見たときは、「絶対に落ちるわけがない！」と思ってしまうほどのすごい汚れが、磨いていくうちにだんだんと落ちていくと、まるで得も言わぬ高揚感に包まれていくようであった。

そして、黙々と和式便器を磨いていくうちに、もうこれ以上は磨けないのではないか、そろそろ終わつても良いかも知れないという思いが頭をかすめはじめた。バケツに入つた水が汚れたので綺麗な水と交換するという大義名分を立て

なるくらいとも綺麗であった。先生の磨く和式便器と自分が磨いていた和式便器を見比べて、私はとても恥ずかしくなった。しかしそれは、自分が磨いている和式便器がまだまだ汚れていたからでは決してなかった。ではなぜかと、いうと、自分自身で勝手にこれ以上汚れが落ちることはない、もう無理だと限界を決めて、これくらいで良いかと妥協点に落ち着いていることに気づかされたからである。

何かしらやらねばならないことがあるにもかかわらず、やる気の出ないときに、時間や範囲を決めてここまで頑張ろうと目標を立てることは、物事に取り掛かる上で時には有効な方法だと思う。しかし、思い返してみると、今回の便器磨きのように何かに取り組んでいる最中に、ふと、「もうここまでやつたから良いか」と熱意がなくなり、気持ちが折れてしまうような経験がしばしばあることに気がついた。最初にここまでと目標を決めて物事に取り掛かるのと、物事に取り掛かっている途中で、まあ、ここまでと目標を決めて物事に取り掛かるのと、でやれば良いかと決めるのとでは、同じでようで全く異なる。まさに似て非なるものである。

これによつて読書力が身についてくると思います。中には面白くてためになる本もありますね。たとえば小川洋子という人が書いた「博士が愛した式」。面白くて面白い、あの中に出でてくるいくつかの数字を覚えちゃつてるんですね。時々中学生、高校生に話すときに使うんですけども、私のようなこんな歳になつても八十五億八千九百八十六万九千五十六、三千三百五十五万三百三十六という数字が出てくるんですけども、覚えようと思ったわけではないんですけども、面白いと思つて読んでいたら頭に入つてしまふんです。面白いけどためにならない本、できれば面白くないけどためになる本、その間には面白いけどためになる本に巡り合つていく。昨年、私は塩野七生という人の本を読み尽くしました。「ローマ人の物語」の本を全巻買つて、最初は苦労しました。ギリシャ名、ラテン名はわかりにくい。日本人に馴染みにくい名前ですから覚えにくかつたんですけど、最初繰り返し、繰り返し読んでいるうちに途中から何も苦労せず、人名にも苦労しなくなつた。地名にも驚かなくなつたというふうに変わつてまいりました。ですから、私のよらもうすでに悪徳の世界に落ちている生徒さんを一人でも二人でも美德の世界にすぐく育てていただきたい。そして、残念ながらもうすでに悪徳の世界に落ちている生徒さんを上げていつていただく。皆さんにはそのネット(網)の役割をしていただきたいです。

（編集後記）三月上旬、御殿場市で春キヤンプをしました。「ドーン」と大きな爆発音、「ダダダダッ」と乾いた音。最初、「何隊 東富士演習場が近くにあるんだと気づきました。訓練は夜遅くまで続いていました。災害時に救援・復旧活動をする自衛隊の姿を私たちはテレビで見ますが、有事に備えて日夜訓練に励んでいることを改めて知ることとなり、日本を護つてくれていることに頭を深く下げました。令和の世になり昭和は遠くなり、戦後77年が経とうとします。今、ロシアとウクライナの戦いで多くの犠牲者が出ているのを知ると、領土を護る国防について深く考えなければなりません。明治開国以来、日本は日清、日露、第一次世界大戦、日中、大東亜と戦いましたが、何故私たちの父祖は日本をして戦わなければならなかつたのか。そこを読み解くと当時の世界勢力図が見えて、日本には護らなければならないものがあつたことがわかります。第一次世界大戦後のパリ講和条約で日本は「人種差別撤廃」を提案しましたが採択されませんでした。今もその不合理が続いている。私たち日本人ができるることは日本国を愛することです。職場、社会で当たり前となれば忘れられたものが復活します。日本人の良さはDNAの中で眠っています。その遺伝子のスイッチをオンにするのは『掃除道』です。

前者は最初に目標を決めてそこに向かって努力をしているとても前向きな考え方だ。しかし、後者は物事に取り掛かっている途中で、自分自身で勝手に限界を決め、諦め、妥協しているということも後ろ向きの考え方だ。

ゼミ担当の先生が磨いていらっしゃったピカピカの和式便器を見て、私もまだまだやれるはず

諦めてしまう傾向があることに気づかされた。しかし、一人では諦めそうになつたとしても、周りの方々が頑張っている様子を間近で見ていると、もう一度頑張ろうと思える経験を今回の便教会で得ることができた。この気づきと経験を活かして、教員採用試験においても、途中で諦めてしまうことなく、ときにはゼミや同級の仲間たちと励まし合いながら最後までやり切り、2022年の秋には笑顔で合格を報告できるように、粉骨碎身努力する所存である。

えるほどに綺麗になつていた。一人きりでトイレ掃除をしていたら、きっと途中で諦め、妥協点に落ち着いていたことであろう。しかし、今回の便教会では、ゼミ担の先生をはじめとするグループの方々が一生懸命トイレ掃除をやつた。グループの方々と最後までトイレ掃除をやりきることができたからこそ、最後にはとても清々しい気持ちでトイレ掃除を終えることができた。素敵なグループの方々に恵まれたことをとてもありがたいと思う。

私は現在、東海学園大学の養護教諭専攻に所属している。大学生活も春から四年目を迎える。今年は教員採用試験が待ち構えている。教員採用試験とは、どれだけ勉強したとしても、ここまでやれば合格するという終わりがあるものではないだろう。今回の便教会を通して、物事に取り組んでいる最中に、自分自身で限界を決め、

『多くの学びがあつた便教会』

東海大學園大
養護教諭專攻 新增理紗

大学生になり、トイレ掃除をする機会が増えた。「トイレ掃除をすると運気が上がるよ」と、その時のゼミ担当であった梶岡先生がおっしゃつていたからだ。普段から使い終わつた後にササつとトイレ掃除をしたり、大事な発表の前はいつもより念入りにトイレを掃除したりしていった。そんな中、「便教会」という活動があることを梶岡先生から紹介された。今まで耳にしたことのない活動だったし、学べることがたくさんあると聞き興味が湧いた。しかし、参加したいと思っていたものの新型コロナウイルスの影響で延期が続き、なかなか参加する事が叶わなかつた。月日が過ぎ、今回、再び梶岡先生にお声掛けして頂き、遂に参加することが出来た。興味が湧いていたものの、いざ参加し便器を目の前にすると、「汚くて嫌だな」という気持ちが湧き上がつた。しかも私の担当は男子トイレの小便器だ。普段使つたことのない男子トイレ

レの掃除を行うことには抵抗があつた。だが、周りの方々はすぐに掃除に取り掛かり、便器を磨き始めたため躊躇している暇もなく、私も遅れまいと掃除を始めた。

これを読まれている方は、尿石というものを存じだろうか。私は今回便教会に参加するまでそれが何か知らなかつたし、わからなかつた。そもそも尿石という言葉を聞いたことも無かつた。尿石というのは、尿に含まれる成分が便器内で固まつたものである。初めてまじまじと尿石を見た時、掃除をするのをためらうほど嫌な気持ちが湧き出でてきた。しかし、尿石を歯ブラシでこすつて取る方法を教えて頂き、取り始めると不思議なことに、こすればこするほど取れていき、スッキリした気持ちになつた。そうこうしているうちに、だんだん「嫌だ」という気持ちは薄れていき、「何とか綺麗になつてほしい！」という強い気持ちで便器を磨いていた。綺麗になつてほしいという気持ちが大きくなればなるほど、私は便器を力強くゴシゴシと磨いていた。ゴシゴシ磨いた方が汚れは早くたくさん取れると思ったからだ。しかしそんな時、チームの方から「掃除道具もひとつひとつ大切に使わないといけない」と教えて頂いた。ゴシゴシ力を入れて磨きすぎていた私の歯ブラシの毛先部分は倒れてしまつて、その対し、教えてくださつたその方の歯ブラシの毛先は倒れずにまつすぐのまま、そして私よりもその方の便器は早く綺麗になつていた。私のやり方では歯ブラシがすぐに悪くなつてしまふし、すぐに使えなくなつてしまう。使う道具ひとつにしても、適切な使い方があり、ひとつひとつの掃除道具を大切に扱うことの大切さを学んだ。

憂い

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

分のトイレ掃除のスキルアップだけでなく、人としても大きく成長できたと感じる。便教会に参加できてとても良かつた。また機会があれば、ぜひ参加したいと思っている。

私が初めて見た道具に対し「これはどうやつて使うのか?」と迷っていたり、「どう掃除すれば良いのか?」と考えていると、近くにいる方々がすぐに声をかけてくださった。「こう使うんだよ」、「こうやって掃除すると効率が良いよ」などと声をかけて頂いた。便教会に参加している方々はみんな優しく、初参加の私でも真剣に楽しく掃除をすることが出来た。最後はチームの皆さんと一緒に並んで順番に雑巾を絞つたり、壁を拭く担当と、掃除道具を綺麗にする担当に分かれた。掃除をスムーズに進めるためには、こうしたチームプレーも大切であること学ぶことが出来た。

15分ほどしかトイレ掃除をしたことの無い私が、約2時間ものトイレ掃除を行うというスケジュールを聞いた際、正直に言うと、心の中では「長すぎる!」という気持ちと、「トイレにそんな長時間も掃除をする部分があるのか!?」という気持ちが入り混じった。しかしそんな気持ちとは裏腹に、実際にトイレ掃除を行つてみると2時間では全く足りなかつた。「こも掃除したい」「ここももっと綺麗にしたい」という気持ちが次から次へと湧いてきた。これには自分でも驚いた。15分の掃除でも早く終わらないかなと思っていたのに、正しい掃除方法と丁寧なトイレ掃除を学ぶことで、ここまで考え方も変わるのでと身に染みて感じた。

と丁寧なトイレ掃除を学ぶことでのこまで考
え方も変わらぬだと身に染みて感じた。
私がたくさん学びを得たのはトイレ掃除だ
けではない。便教会には多くの教員の方が参加
されていた。掃除後の報告会ではグループワー
クの時間を設けてくださり、そこでもたくさん
の学びがあった。学校で働く養護教諭をめざす
私にとって、今現在学校で働いている教員の方

の意見を聞けることは大変貴重だった。「普段あまり時間のない学校でのトイレ掃除では、どんなことに気をつけて掃除指導をしているのか」という質問をしたところ、「トイレ全体を綺麗にするのではなく今日はここを綺麗に、次はここを綺麗に、といったように重点的に行う場所をひとつひとつ指定して掃除を行うようにしている。」「中学生、高校生になると、教師が掃除をしているところを見せないと子どもは動いてくれないため、まずは自分が率先して掃除を行う」などといった回答を頂いた。

自分が率先して掃除をするためには、子どもたちのお手本になるような掃除を行わなければならぬ。お手本となる教師が間違った方法、手を抜いた方法で掃除をしていては子どもたちの手本にはなれない。良いお手本になるような掃除方法を今回の便教会でたくさん学ばせて頂いた。次は私が養護教諭となり、今回学んだことを子どもたちに教える番である。掃除の大切さだけでなく、物を大切に扱うことでも教えていただきたい。また、あまり力を入れなくても雑巾をしっかりと絞れる方法も教えて頂いた。力がなく、雑巾を絞るのにも苦労していた小学生の頃の自分に教えてあげたかった。便教会で学んだことだけでなく、感じたこと、想つたことも子どもたちに伝えていきたい。

今回、便教会に参加して大きな気持ちの変化があつた。今までには先に述べたように、自分の運気が上がるよう、自分に得があるようによつて掃除を行つてきたが、それだけではなく、トイレを使う人が気持ちよくスッキリした気持ちで使つて欲しい、トイレをいつも綺麗な場所にしておきたいという気持ちが強くなつた。自

とおがねい仕事でいまかい

—憂い—この詩は有楽町駅前の東京アーラムという東京都の施設があつて、その地下一階に「相田みつを美術館」があります。この詩はそこに常設してあります。むかしの人の詩にありました。ここから良寛さんがよく使つた言葉が出てきます。良寛さんの言葉ではありませんが、良寛さんが好んで使つたという言葉が出てきます。君看よ双眼のいろ 語らざれば憂い無きに似たりどうぞ皆さん私の双眼の色、私の二つの眼を見てください。私が何も言わなければ、何も憂いがないように見えるでしよう。これから相田先生の言葉が始まります。憂いがないではありません悲しみがないのでもりません 語らないだけなんです語れないほどふかい憂いだからです 語れないほど重い悲しみだからです 人にいくらう説明したつて 全くわかつてもうえないから 語ることをやめて じつと こらえているんです 文字にもことばにも 到底表わせない ふかい憂いを おもいかなしのみを こころの底ふかく ずつしりしづめて じつと黙つて いるから まなこが澄んでくるのです 澄んだ眼の底にある